

山梨大学土木環境工学科
山梨大学大学院医学工学総合研究部

学生会員 山本 明弘
正会員 大山 勲

1. はじめに

山梨県市川大門町ではまちなかの水路は蓋をされ、道に変えられ、まちなかの邪魔者のような扱いをうけている。一方、まちなかには網の目のように水路が残り、あちこちで水の流れる音を聞くことができ、一部にはきれいな流れを見せる水路が残っている。それら水路の良い面を見てこの町の水路の保護や再生をしてまちに生かしていきたいと思い、市川大門町を研究対象地とすることにした。まず水路に関心のない住民の意識を変えることが必要であり、そのためには町の水路が人々の生活とどのように結びついてきたかどうかが明らかにするが必要だと考えた。

2. 研究の目的

「市川大門町における伝統的水空間の生活・文化とのつながり、その特徴を明らかにする」

3. 研究の方法

水路の現状調査、跡地調査

史料（絵図や文献）から過去の水路に関する情報整理

既存研究整理によって日本各地の代表的水空間におけるシステム、利用方法、歴史、生活の特徴を整理しその特徴からヒアリング調査項目を作成（図1）参照

古くから市川大門町の中心市街地に住んでいる人を対象にしてヒアリング調査をおこなう。

4. 調査結果

中心市街地に住んでいる大正、昭和初期生まれの人たち16人から話を聞くことができた。ヒアリング調査の結果以下のような生活、文化との水とのつながりを得ることができた。

4-1. 生活全般について

飲み水

町の文献を調べてみると、昔は水路の水を飲用水に使っていたということがわかった。一方ヒアリング対象者の中には水路の水を飲み水に使ったことがあるという人はいなかったが、飲んだ話を聞いたこ

1. 生活全般についての使い方はどうだったのか？
風呂の水、飲用、道や植栽への撒水、
野菜を冷やす
洗濯や野菜についた泥を落とす、手や顔を洗う
カワド等の洗い場をつくる
2. 防災についての使い方はあったのか？
防火用水（火災防止） 大量の雨水を一時的に貯水する遊水地
3. 生産、商業についての使い方はどうだったのか？
動力源（ボットリや水車への引水） 農業用水
養魚 酒、味噌、しょうゆの醸造用の水源・冷却
紙漉きへの利用
4. どのように文化的に使われたか？
祭りや盆踊りの舞台 川や水路にまつわる行事
水路や川にまつわる信仰
5. 楽しみには利用されたのか？
水路にいる生物との関わりあい（飼育、つり、遊び） 観賞（庭池、曲水）
涼しさの演出、水路があることによる景色
6. つながりをつくる媒介になっていたのか？
水路の管理や共同利用（洗濯場）などによる近所づきあい、子供や大人が水やそこにすむ生物や水という自然との係わり合い
7. 水路の管理はどうだったのか？
水路組合 水門の管理 掃除
以上を踏まえたうえでの現在の水路に対する意識、現状に対する希望？

図1. 住民へのヒアリング調査項目

とがあるということは聞いた。

洗う

洗濯をしたことがあるという人は比較的多かった。他にも野菜を洗ったり、米をといだりする人がいた。しかし、井戸がある人はなるべく井戸を使っていて、さらに町には共同井戸というものがあり、そこで洗い物をする人も多かった。

打ち水

夏、暑い時期に水路の水が打ち水に使われるこ

Key Word: 水路 歴史 景観 生活 文化 保護 再生

連絡先 : 〒400-8511 山梨県甲府市武 4-3-11 山梨大学 土木環境工学科 環境計画研究室

とは多かった。夏に涼しさを演出するという効果だけでなく、未舗装のころの道路の埃止めという効果もあった。

4 - 2 . 防災と水路について

火消し

水路の水は消火のときに使われた。消火活動のときには消防車に積んであった堰板で水路の水を集め、そこにポンプの先を入れ竜吐水という手動ポンプで水を汲み上げて消火に使った。

4 - 3 . 生産、商業について

紙漉き

紙漉きを行ううえで水路の水は重要な存在だった。この町では古くから紙漉きが行われていて、紙漉きは今でも町の主要な産業のひとつである。紙漉きの工程の中で水路の水は使われ、町の人々の内職にも役立った。紙の原料である楮や三椏を水路や池につけてふやかしてから原料の皮をむき、それを紙屋に売るといった内職の話も多くの人から聞くことができた。この仕事は主に主婦、特に年寄りに多く、「かどむき」と呼ばれていた。他にも障子を巻く「巻紙」という内職もあった。紙屋からでる排水はそのまま水路に流されていたが戦前は紙を洗うときに化学薬品を使っていなかったため環境に影響がなかった。しかし、戦後に化学薬品が使われるようになってそのころの話を見ると、「魚を見なくなった」、「水の色が濁っていた」など水質が悪化していたことがわかる。

つきやの水車

戦前には水車は町の中に3つくらいはあったという。これは「つきや」と呼ばれる精米屋が所有していたもので所有者の一人に話を聞いたところ戦後に電気式の機械が導入されたことによって無くなったという。安政4年に描かれた町の絵図を調べたところ12基の水車があり、明治の本には当時町に13基の水車があったことが記してある。

生糸

水路の水は生糸の生産にも使われた。

6 - 4 . 文化的、宗教的な位置づけ

- 水の神様

「水神さん」と呼ばれる神様が水場にあり、井戸に祀ってあった。

屋敷神

各家には屋敷神と呼ばれる神様が祀ってあり、

正月にはお供えをする。屋敷神の中には井戸など家の水辺に祀られるものもあった。

4 - 5 . 楽しみについて

はまいか

市川大門町には「はまいか」と呼ばれる縁台があり、戦後、道が車のものになる前は、夏になると道に「はまいか」が置かれ、住民は将棋や碁を楽しんだ。

魚とり

戦前、町なかの水路には魚がたくさんいたという話をたくさん聞いた。その中でいろいろな魚の捕まえ方を教えてもらうことができた。「ビンぶせ」という方法は網をつけたピンを川底に沈めておく方法で、他にも箕をつかったり竹で作ったすだれで魚を捕まえたりする方法があった。

川干し

これは町なかの水路の掃除でいっせいに水路の水を上流で止めて水路の泥をあげたりすることである。しかし、この行事は子供にとっては逃げ遅れた魚を捕まえたり、水路の底に落ちている銅を拾って売って小遣いにしたりなど子供にとっては楽しみな行事だった。

5 . 考察とまとめ

これらのことより市川大門町の生活・文化と結びついた伝統的水空間の特徴が抽出でき、そこからわかったことは、市川大門の水は産業、特に紙漉きを通して人々と関わっているということだった。そのほかにも人々と水辺の結びつきはたくさんあった。しかし、戦後の話を聞くと、水辺はどんどん失われていき、車のために水路をつぶして、水質も悪化し一方で水道水の普及によって人々は水辺がなくても生活できるようになり、そして水辺への関心はなくなっていった。

6 . 今後の課題と提案

今後、水路の保護・再生を進めていこうと考える場合に町の人に昔の水辺とのつながりを思い出してもらい、また知ってもらうことが大切である。そして町の個性のひとつである水空間のことにもっと関心をもってもらえれば水空間の再生・保護につながるのではないかと思う。